

# 「畦畔グリーン」で活路

京都・京丹波町  
農業委員会

## 中山間地の農地保全を

### 実証圃場づくり芝植栽 定着も



雑草を除去した畦畔に全員で芝の播種

【京都】中山間地域では、農地を保全する上で畦畔の草刈りが大きな負担となる。京丹波町農業委員会（森田保会長）では、畦畔に芝を植栽することで作業の軽減をはかる「畦畔グリーン」の実証圃場づくりに取り組んだ。

## 草刈り負担を軽減 畦畔の雑草防止に



芝が7〜8センチまで成長し定着

きっかけは、2015年8月に同委員会農政部会が

行った町内の農業者との意見交換会だ。農業者の高齢化が進む中、自分で農業を続けるにも、担い手に預けるにも、広大な畦畔の管理がネックになることが浮き彫りになった。

これを受け、農業委員会では、農地の保全に活路を見いだそうと、まず、芝の植栽による畦畔の雑草防止の実証に取り組むこととなった。

実証地は、多面的機能支払に取り組む小畑集落の畦畔（10㍍）を選定。小畑集落は、畦畔が水張り面積に匹敵するほど広大であることに加え、クズの繁茂がひどく、農業者の平均年齢は73歳と今後の畦畔管理に悩む集落の一つだ。

地区の梅原農業者委員会が中心となり、16年3月から除草剤による雑草の除去や施肥などの準備を進めた。9月には集落の役員に加え、農業委員も総出で参加

し、ペントグラスといわれる芝の播種を行った。6月には農業委員会で先進地視察にも赴くなど、研究を進めた。

現在、実証圃場では芝が定着し始めており、町内の農家に関心をもって見守っている。（岡田充弘）